



馬耳東風

久しぶりに東京湾横断道路を渡った。近代的な道路だけあって素晴らしい。だいたい海の上を走ることは気分がいい。東京湾を橋で渡ることが出来るなんて昔は誰が予想したろうか。過去の歴史において橋が人類の文明伝達や生活発展に果たしてきた役割は計り知れぬほど大きい。この橋はその点でどうなるのであろう。

何時出来上がったのか聞き忘れたが、トルコ、イスタンブールのボスポラス海峡をまたぐファティ橋とボスポラス橋は、完全にヨーロッパ大陸とアジア大陸を結ぶ橋で、両文明の架け橋となっている。

イタリアの水の都ヴェネチアにリアルト橋というのがある。16世紀ヴェネチア発祥期から存在した橋だそうで、ヴェネチアの街はこの橋を中心に広がったそうだ。橋の上にさらにアーケードがあり土産物店が並んで居る。橋の上も楽しいが、ゴンドラで下をくぐり、下から眺めるのもまた楽しい。下から見て楽しいといえば、パリのセーヌ川にかかる多くの橋は、パトームーシュで下から見てもなかなかの芸術品であることがわかる。これまた有名なフランスのアヴィニヨンの橋は現存するが半分までしかない。したがって渡ることはできない。それでも残している。歴史と観光のためだ。

私の記憶の限りでは、橋の圧巻はなんと言っても南フランスはニームの近郊にあるポンデュガールにつきる。3層石造りの実に見事な橋だ。これは人を渡す橋ではな

く、水を導く水道橋だ。ローマ文明の遺跡で、2世紀以上の歴史がある。2,000年前にこれだけのものを作れる建築技術を持っていた古代ローマ文明に畏敬の念を払わずに入れない。ところで、今は許されているかどうか知らないが、私はその橋の最上部を走ったことがある。立っただけで足がすくみそうな高さで、幅50センチあろうかなかろうかの最上部をほんの数メートルだけだが走った。なんのために？ 賭に勝ちたかっただけだ。ホンとは逆立ちをしてみたかったのだが、それはやめておいた。若かった。

橋は出来上がっても美しいが、壊すシーンも絵になるらしい。第二次世界大戦のヨーロッパ戦線を題材にしたアメリカ映画で、地元のレジスタンスが、アメリカ工作員と協力して、ドイツ軍の戦車や装甲車が進行する橋を破壊するシーンをいくつか見た覚えがある。犠牲となるドイツ兵に同情するとともに見事な橋を壊すなんてもったいないなと思った。これはヨーロッパだけの話ではない。同じアメリカ映画で「戦場に架ける橋」というのがあった。第二次世界大戦中、日本軍が英国軍捕虜を使って、クワイ河に架けた橋の物語である。苦労に苦労を重ねてようやく出来上がった橋を、米工作員を中心としたチームに、開通式の日には破壊されるのである。私は若い頃アメリカの地方都市でこの映画を見た。最後のシーンで、周囲の観客が拍手と歓声を上げる中、私は悲しい思いで下を向いていた。世の中には喜ぶ人が居れば、同時に悲しむ人が必ず居ることを身にしみて感じた。(子)